県連故郷巡りカリフォルニア＝150周年、満砂那（マンザナー）に平和を祈る＝《２３》

桑港にある現役日本人墓地

磯順代さん

翌４月１５日、一行は有名な金門橋やツインピークスを観光。一行の磯順代さん（いそ・じゅんよ、８０、福島県）は、第５０回を数える故郷巡りの第１３回からほぼ全回参加している最古参。印象に残る訪問地を尋ねると、「マリンガーの和順会を訪ねた時、赤土（テラ・ロッシャ）がツルツル滑って流産した赤ちゃんがたくさんいると聞いて、あーって思ったわ」と思い出す。

「こんなところにまで来て無縁仏になって無念だろうなという人に手を合わせる。そんな先人の法要をして歩くのが本来の故郷巡り。観光が多くなって変わっちゃった感じがする」。

でも、マンザナー強制収容所での法要には満足した様子。「私も６歳の頃、満州の吉林から引き揚げた。ロシア軍が来るかもと、長屋三軒、壁をくりぬいて逃げ道を作っていたわ。でも強盗に入られて、男は後ろ手に縛られ、伯父さんの一人は撃たれて即死した。私は怖くて父の背中にピッタリくっついていたから、叔父さんがウーンで唸って倒れたのしか分からなかった。冬だった。棺を見つけて火葬した。背負えるだけ荷物を持って日本へ引き揚げた。私はリュック一つだけ。マンザナーに連れて来られた人たちも、きっと家財を捨てて、同じ様な想いをしたのでは」。

☆

日本人共同墓地の全景